

第 29 回 ドイツ語教育研究ゼミナールを下記の通り開催いたします。多くの皆様の参加を心よりお待ちしております。

総合テーマ： 教員同士で協力する環境におけるドイツ語教員の生涯にわたる専門性の向上
(Lebenslange Professionalisierung von DaF-Lehrenden in kollegial-kooperativen Settings)

日程： 2025 年 3 月 17 日（月）～ 3 月 19 日（水）

招待講師： Prof. Dr. Kathrin Siebold
Philipps-Universität Marburg
Institut für Germanistische Sprachwissenschaft
Arbeitsgruppe Deutsch als Fremd- und Zweitsprache

会場： けいはんなプラザ
〒619-0237 京都府 相楽郡 精華町 光台 1-7
(近鉄京都線新祝園駅バス 15 分)
<https://www.keihanna-plaza.co.jp/>

参加費： 35,000 円

(日本独文学会会員の学生・院生, 非常勤講師の方には参加費補助を検討しています)

定員： 40 名

参加申込締切： 2024 年 12 月 15 日（日）

参加申込： <https://www.daf-seminar.jp> よりお申し込みください。

※ 参加は申し込み順に受け付けますが、最終的な選考は日本独文学会理事会で決定いたします。

※ 中国・韓国・台湾のゲルマニスト関連団体の方が申し込む際は、略歴および主要業績リストを提出してください。参加費は 35,000 円です。

※ 日本独文学会会員以外の方が申し込む際は日本独文学会会員（学生・院生の申し込みの場合は指導教員）の紹介が必要です。紹介者の氏名をお知らせください。また他に略歴、参加希望理由（ドイツ語で 150 語程度）、業績リスト（研究業績がある方）を申込時に提出してください。参加費は 45,000 円です。

ゼミナール内容：

ドイツ語教師は様々な業務、職務の中で多様な役割や任務を果たさなければならなりません。そのため、教師としての専門性は、決して、出来上がって完結した静的なものとして理解されるべきではなく、むしろ、生涯にわたる学習として習得済みの知識や技能を自主的に更新・拡張し、職業上の課題の変化に適応させていく継続的な専門化のプロセスとして理解されるべきです。生涯にわたって学び続けるドイツ語教師にとって重要な特徴には内省能力、分析能力、研究精神、イノベーションと協力への意欲が挙げられます。個々のケースにおいては、教師同士の交流と能力開発のための制度的な場となる適切な養成・研修プログラムや協力的な職場環境といった要因が成功につながっています。

こうした背景から、本年度のドイツ語教育研究ゼミナールは「教師同士で協力する環境におけるドイツ語教師の生涯にわたる専門性の向上」という総合テーマのもと、複数のワークショップを通じて、学び続ける教育者と自認し、教師同士でお互いに、お互いから学び合う協働的な形のトレーニングに関心のある現役のドイツ語教師、および、これからドイツ語教師を目指す人々に刺激を与えることを目的とします。

第一に、「教師同士での授業参観」に焦点を当て、その可能性と課題について理論的に探求し、実践的に試行します。このテーマでは、参加者が自身の実際の教育活動から特定

の分野を選び、その分野に意識を向けて集中的にトレーニングします。第二に、実際の授業シーケンスを「ビデオによる事例研究」の形で協力して分析することで、「専門家としての授業の受けとめ方」をトレーニングします。その際、教師の側のインターアクションの形成に観察の重点が置かれねばなりません。最後に、ドイツ語圏の教育分野では教師の授業開発と専門性の向上を重視する学習を指向した協働体制としてますます確固として確立している「プロフェッショナル・ラーニング・コミュニティ (PLGs)」での技能習得の可能性が、日本の教育事情を踏まえて批判的に検討・議論されねばなりません。

本ゼミナールでは、学習理論と教授法の最新の動向にもとづく教員同士の協働的な環境で見識を深め、自身の外国語教育アプローチを省みたいと考えているドイツ語教員の方々を歓迎します。この機会に、生涯にわたる専門性の向上について考えを深めてみましょう。このプロセスは、絶えず変化する教育環境に適応するための糧となるでしょう。

招待講師として、フィリップス大学マールブルク (Philipps-Universität Marburg) のカトリン・ジーボルト教授 (Prof. Kathrin Siebold) をお招きします。ジーボルト教授のご専門は外国語および第二言語としてのドイツ語教育で、2017 年より同大学において修士課程、教員養成課程、そして生涯学習課程の様々なドイツ語教育研究プログラムの責任者を務めています。以前は 15 年以上にわたり、スペインの高等教育機関で研究に従事し、教鞭をとっていました。主な研究分野は対照語用論、インターアクション研究、教育における協働に関する研究、教授法と方法論、ドイツ語教師の専門性の向上です。

(参考 URL : <https://www.uni-marburg.de/de/fb09/igs/arbeitsgruppen/dafz/mitarbeiterinnen/siebold>, Orcid: <https://orcid.org/0000-0003-2644-0883>)

参加者が互いに自らの体験について意見を交換し合い、ご自身の授業実践を見直すきっかけを促すこともまた本ゼミナールの目的です。DaF 分野の専門知識は必ずしも必要ではありませんので、どの研究分野の方にもご参加いただけます。過去に教授法ゼミナールにご参加されたことのない方もどうぞ奮ってお申し込みください。なお、現在託児の手配を予定しております。お子様連れでご参加される場合には、お申し込みの際に同伴されるお子様の人数をお知らせください。

ゼミナール中に、テーマに関連する研究発表（ドイツ語で 15 分）をご希望される方は、参加申し込みの際に「研究発表希望」と記し、発表題目と発表要旨（ドイツ語で 250 語程度）を添付してください。発表者の最終決定は実行委員会にご一任ください。

なおゼミナール当日の時間の都合上、開催 2 週間前までに発表動画をご準備いただき、ゼミナール当日は動画視聴を前提としたディスカッションのみ行う可能性もございます。あらかじめご了承ください。

第 29 回ドイツ語教育研究ゼミナール実行委員会：

Maria Gabriela Schmidt（実行委員長）、牛山さおり、Carsten Waychert、齋藤正樹、Nancy Yanagita、小林大志、Nina Kanematsu、亀井明子

お問い合わせ先：daf2025-open_AT_jgg.jp（_AT_ には@を入れてください。）